

参加したNGO・NPO、そして企業の皆さんから

今回開催されたリオ+20には、日本からも官公庁や自治体、企業、研究機関、そしてNPO・NGOの皆さんが数多く参加しました。地球環境基金では、リオ+20に向けた活動に取り組む11のNPO・NGOに助成金を交付しましたが、この中から一般社団法人ワールドシフト・ネットワーク・ジャパン、グリーンエコノミーフォーラム、そして認定NPO法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議の3団体と、企業として参加された味の素グループの皆さんに寄稿いただきました。

一般社団法人 ワールドシフト・ネットワーク・ジャパン

The Future We Want
-Japan VOICES-



ブルーズサミットでのブース出展

<http://worldshift2012.jimdo.com/>

グリーンエコノミーフォーラム

グリーンエコノミーの
推進を目指して



3月30日のシンポジウムの様子

<http://geforum.net/>

認定NPO法人 持続可能な開発のための
教育の10年推進会議 (ESD-J)

地域のエンパワーメントを核にした
持続可能なアジアへ



国連、NGO、研究者などが参加した
公式サイドイベント

<http://www.esd-j.org/>

味の素グループ

サステナブルな食の未来に向けた
取り組みを世界に提言



ジャパンパビリオンで
プレゼンテーションする 國本 裕
味の素株式会社 代表取締役 副社長執行役員

http://www.ajinomoto.co.jp/press/2012_06_05.html

東日本大震災後の日本に暮らす人々の声から私たちが目指す未来の姿を描き出し、リオ+20を通して世界に発信していくプロジェクト「The Future We Want -Japan VOICES-」のもと、ワールドシフト・ネットワーク・ジャパンは、映像制作（アーティストから起業家、震災ボランティア

私たちは、「環境社会問題解決・持続可能な社会実現のための経済の推進」を目的にリオ+20に参加しましたが、事前活動として3月13日にワークショップ「環境・貧困問題解決に向け、経済のあり方を考える」、3月30日にシンポジウム「CSR基準の最新潮流と今後」、そして6月6日に

Action Report

私たちは、今年3月、ESD(Education for Sustainable Development)に関するネットワーク構築を目指すアジアのNGOとともに、リオ+20に向けた提言を取りまとめました。提言では、「21世紀、世界経済の中心となるアジアは、地球の持続可能性に大きな影響を与える。持続可能な開

「私たちの望む未来」の実現に向けて、味の素グループは、日本発のグローバルな食品メーカーとして、6月13〜24日、ジャパンパビリオンおよび国連による併設セミナーにおいて、事業を通じて、人にも地球にもよりよい食の未来を構築していくことを宣言しました。キーワードは「good

アから思想家まで、ポスト3・11の日本のビジョンをリードする有名無名の人々の映像インタビュー)、ならびにリオ現地での発信を行いました。リオ現地には映像に出演された福島の方々も同行し、ブルーズサミット、公式サイドイベント、ジャパンパビリオンパネルドイスカッションならびに経済産業省ブース等にて、映像上映や参加者同士での対話を行いました。

リオ+20直前シンポジウム「持続可能な開発と貧困撲滅の文脈におけるグリーンエコノミーとポストMDGs / 持続可能な開発目標(SDGs)」を開催。また、3月31日にはレポート「リオ+20に向けた現状と展望(詳細版123頁、要約版4頁)」も発行しました。

市民レベルでの対話と連携に大きな手応えを得るとともに(大手新聞メディアにも掲載)、ジャパンパビリオンにおいても市民らしい活動として好評をいただきました。今後は、リオ現地での情報や成果を国内にフィードバックするとともに、今回の活動を通して培ったネットワークを活かし、日本の人々の未来に向けた声を集め、ビジョンを描くプラットフォームとして発展させていきたいと考えています。(詳細は、<http://thefuturewant.jp/>を参照)

現地での主な活動としては、交渉をフォローし、その状況をまとめたメールニュースの配信、当フォーラムメンバーによる関連イベント等での講演、そして他NGOとの連携の下での記者懇談会をそれぞれ複数回実施。各イベントでは、様々な国の方々と活発な議論を展開し、当フォーラムメンバーの見解はメディアでも紹介されました。今後は、成果文書において持続可能な開発達成の重要なツールと位置付けられた「グリーンエコノミー」に関し、更なる国際合意形成と各国・NGO・企業の取り組み促進のため、シンポジウム開催、書籍発行、情報・提言の発信等を行っていきます。



ジャパンパビリオンでのパネルディスカッション



リオ+20会場での成果文書交渉

特集 リオ+20



アジアのNGOと取りまとめた提言をもとにインド、グルジア、日本の各政府に成果文書への要請を行った

発の基盤は地域コミュニティにあり、地域をつくる人づくり(II ESD)が重要。政府や国連の手の届きにくい地域コミュニティレベルでの持続可能な地域づくり・人づくりに貢献しているNGOの存在がとりわけ重要」等が強調されています。リオ+20では、公式サイドイベントを開催し、アジアのNGOと提言をアピールしたほか、各国政府や様々な関係機関にも提言を周知しました。成果文書に、国連持続可能な開発のための教育の10年(DESDD)終了後のESD推進が明記されたことは大きな成果でした。他方、成果文書における教育に関する解釈は狭く、教育機関以外のセクターの参画や、キャパシティビルディングと教育とのリンクが不十分という課題も明確になりました。今後、持続可能な開発に必要な教育とは何かを改めて問いかけながら、DESDD終了後のESD推進のあり方を、幅広いステークホルダーとともに検討を深めていく方針です。



ブースに訪れた約2万人の方と活発に議論

getting II Green eating」。それは、ただおいしいだけでなく、栄養バランスが優れているだけでもなく、この星の自然を育み、人も地球も健康にする、そんな新しい「食の未来」をつくることです。味の素グループは、食、アミノ酸、医薬等の事業を通じ、創業以来103年にわたり培ってきた、いのちに深くかかわる知見を活かし、現在約70億、2050年には90億に達すると言われる世界の人々の食のあり方を変えられるような製品とサービスを提供していきます。ブースやセミナーにお越しいただいた国連や各国の政府・NGO関係者、学生、一般市民等2万人以上の方々と、食の未来について様々な角度から意見交換をし、皆さま方には私たちの活動に対して高い期待と関心をお寄せいただきました。味の素グループは今後も、人のいのちを支える食の持続可能性に向けた取り組みを深め、世界の方々とともに、食の未来を考える機会を大切にしていきたいと考えています。